

令和 6 年 5 月 10 日現在

機関番号：34509

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02128

研究課題名(和文) 在日朝鮮人を取り巻く言説空間：「北朝鮮」表象を中心に

研究課題名(英文) Discourse Space Around Zainichi Koreans: Focusing on the Representation of "Kita-Chosen"

研究代表者

李 洪章 (LEE, HongJang)

神戸学院大学・現代社会学部・准教授

研究者番号：20733760

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：在日朝鮮人とネイションの関係性に関する言説空間の考察については、社会学領域における在日朝鮮人研究において、「トランスナショナル」や「グローバルとローカルの接続」を過度に強調する一方で、ナショナリティが見落とされてきたことを明らかにした。また、日本の言論における「北朝鮮」表象のあり方については、在日朝鮮人の自己表象的作品において、悪魔化された「北朝鮮」像の影響を強く受けていることが明らかになった。さらには、日本と朝鮮との接触領域における葛藤や共同については、朝鮮学校や在日朝鮮人の本国への移動、韓流受容などについての調査を実施し、在日朝鮮人とネイションの複雑な関係性を多角的に描き出すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

在日朝鮮人のナショナリティをめぐる言説空間が、全体として在日朝鮮人の主体的意思や自律的な選択が後衛に退ける状況を生み出すメカニズムを描き出すことができた。さらには、そうした力学のなかで在日朝鮮人が、複数の準拠集団における「中枢の語彙」を巧みに「翻訳」し、自らの生活世界に落とし込むことで、自らの語りの正当性と合理性を担保しようとする姿を明らかにすることができた。これにより、近年捨象される傾向にある在日朝鮮人と国家/民族の関係性を捉える際、国民国家を相対化しつつも、同時に国家の正体性を問い直すための姿勢・方法を示すことができたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：In regard to the discourse space of the relationship between Zainichi Koreans and Nation, the study revealed that while there has been an overemphasis on "transnationality" and the "connection between the global and local" in the sociological study of Zainichi Koreans, nationality has been overlooked. In term of the representation of "Kita-Chosen (North Korea)" in Japanese discourse, we mainly analyzed the self-representational works of zainichi Koreans. It became clear that they are strongly influenced by demonized images of "Kita-Chosen". Regarding conflicts and collaboration in the sphere of contact between Japan and Korea, we conducted research on Korean schools, the migration of Zainichi Koreans to their home countries, and the acceptance of the Korean Wave. As a result, we were able to capture the complex relationship between Zainichi Koreans and the Nation from multiple perspectives.

研究分野：社会学

キーワード：在日朝鮮人 ナショナリティ トランスナショナリティ 北朝鮮表象 朝鮮学校 帰還的移動 韓流受容

1. 研究開始当初の背景

現代日本社会において、朝鮮民主主義人民共和国(朝鮮)の存在は、政治上のみならず、生活を脅かす危険要因として見做される傾向が強い。たとえば「北朝鮮」報道は、日本の加害の歴史はおろか、国内政治が抱える諸問題を隠蔽することに利用され、近年は日韓関係の悪化に伴い、韓国までもがそれと同種の扱いを受けるに至っている。

このことは、在日朝鮮人表象のあり方にも大きな影響を与えている。昨今のヘイトスピーチに代表される在日朝鮮人差別に対して、「リベラル」な立場にある人々は、自由を尊重する観点から異議を申し立てるが、その際に、在日朝鮮人の主体的な意思や自律的な選択は後景に退けられ、構造的な「被害者」としての側面のみが強調される傾向がある。このように、現代日本社会における「北朝鮮」という概念は、社会現象を説明する際に構造と行為主体性の双方とその関係性に着目するという、社会科学領域で共有された哲学を揺るがすほどの強い磁気を発している。

2. 研究の目的

そうした状況を踏まえたうえで、本科研では、「リベラル」によるいっけん「良心的」なアプローチも含めた、在日朝鮮人をめぐる言論空間全体を俯瞰し、その複雑なポリティクスのあり様のなかに、その行為主体性を位置づけることを試みた。具体的には以下の3つの課題を掲げた。

在日朝鮮人とネーションの関係性に対する言説と表象分析

日本の言論における「北朝鮮」表象分析

日本と朝鮮との接触領域における葛藤や共同に関するエスノグラフィ

3. 研究の方法

上記3つの課題に対して、それぞれ以下のような方法で研究を進めた。

社会学領域における在日朝鮮人研究において、在日朝鮮人とネーションの関係性や、在日朝鮮人による母国/祖国をめぐる語りの何が描かれ、何が見落とされてきたのかを明らかにし、その原因を探る。

映画や小説(ヤンヨンヒ『かぞくのくに』、崔実『ジニのパズル』など)を通じて、在日朝鮮人はいかに自己を表象してきたのか、また、それらは日本社会においていかに受容されているのかを描き出す。

朝鮮学校における実践や、韓国/朝鮮への旅行や留学、研修などといった帰還的移動、韓流受容のあり方を事例とし、フィールドワークやインタビューを実施することで、在日朝鮮人にとっての「ネーション」の現在的意味を探る。

4. 研究成果

上記3つの課題について、それぞれ以下のような成果が得られた。

李洪章は、90年代以降「外」の世界の複雑性を研究内の視点に取り戻しながら、現実的

な経験としての「民族」の再記述を試みてきた社会学領域における在日朝鮮人研究が、「トランスナショナル」や「グローバルとローカルの接続」を過度に強調することで、民族や国家のリアリティを見落としていることを指摘した。そして、それを乗り越えるためのひとつの方法として、「期間的移動」の視点を導入することの有用性を主張した。

金泰植は、在日朝鮮人の登場する作品〈スープとイデオロギー〉や〈ジニのパズル〉、また1970年代の反共映画などに対し、作品自体を分析するのではなく、作品と読者を取り巻く環境に注目しながら、スチュアート・ホールのメディア論を参考に、作品を文化的な場と考えそこに働く文化政治について考察した。ホールは「作り手」のコード化されたメッセージを「受け手」はそれぞれ受容し解釈（脱コード化）するが、その「脱コード化」は支配的な言説の影響を強く受けていることを明らかにしたが、在日朝鮮人を扱った作品の受容もまた現在の「悪魔のような／としての北朝鮮」表象の影響を色濃く受けていることを明らかにしようと試みた。このような日本における在日朝鮮人物の需要は、日本の加害／戦争／戦後責任を見えなくしているという政治性を帯びているが、在日朝鮮人自身もまたそのような言説に組み込まれ日本の「リベラル」に都合よく消費されているといえることができる。

山本かほりは、単著『在日朝鮮人を生きる－〈祖国〉〈民族〉そして日本社会の眼差しの中で』において、「朝鮮学校関係者にとって〈祖国〉＝朝鮮民主主義人民共和国（朝鮮）とは何であり、どのような意味をもつのか」という問いを探索した。愛知朝鮮高校（朝高）の朝鮮への〈祖国訪問〉に6回同行し、朝高生にとって、朝鮮〈祖国〉は「当たり前」に朝鮮人として存在できる場所であることを描きだし、〈祖国訪問〉は朝鮮学校で学んだ〈祖国〉が実態をもって「掴む」ことができる経験であることを論じた。また、朝鮮学校無償化支援運動を事例に、朝鮮学校支援者が語る「朝鮮学校擁護」の言説（典型的には「朝鮮学校は北朝鮮ではない」といったようなもの）が、実のところ、朝鮮学校の主体的な営みを奪うものであり、植民地主義とつながっていくことについて批判した。

研究協力者の金汝卿は、朝鮮学校の女子生徒が着用するチマチョゴリ制服に着目し、朝鮮学校の女子生徒たちのサブカルチャーからヘイトクライムに向き合う抵抗的手段としてのチマチョゴリ制服を考察した。まずは、内部のヒエラルキーによってチマチョゴリが朝鮮学校の制服になっていくなかで、むしろ自分たちの文化にしてきた生徒たちの生活や思いを述べた。その上、エスニック・マーカーとしてヘイトクライムの標的になっていく変遷過程を追跡し、朝鮮民主主義人民共和国に関する報道が集中する際に犯罪が集中して起こり、その様相（加害者の階層や犯罪場所、犯行方法）がより普遍化していったことを明らかにした。結果的に生徒の安全を考えた学校の決定でチマチョゴリ制服での登校が中止されるが、その過程で生徒たちがチマチョゴリ制服を着続けようとした事例を紹介した。外部社会による攻撃と、制服着用の決定における内部のヒエラルキーに向き合おうとした女子生徒たちの姿から、非言語的抵抗手段としてのチマチョゴリ制服を位置づけなおした。

李洪章は、グローバルな生活圏の構築、ローカルな日常生活と交差する「もうひとつの現実」としてのナショナルリティに着目し、在日朝鮮人青年の進路選択と祖国訪問経験の関係について考察することを通して、国民国家体制の中で国家の「他者」でありつつも、生活者としては決して一貫して「他者」であるわけではないという複雑な立場を描き出すことを試みた。その結果、複数の準拠集団における「中枢の語彙」を巧みに「翻訳」し、自らの生活世界に落とし込むことで、自らの進路選択の合理性を担保しようとする姿がみえてきた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 李洪章	4. 巻 3
2. 論文標題 長田ノート：マダン／ひらく	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『まちかどの記憶とその記録のために－神戸長田から／へ』	6. 最初と最後の頁 96-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本かほり	4. 巻 14
2. 論文標題 「北朝鮮言説」と朝鮮学校－朝鮮高校無償化裁判支援を通じて－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東海社会学年報	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金泰植	4. 巻 19
2. 論文標題 「総聯系」在日朝鮮人表象の政治学（韓国語）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際高麗学	6. 最初と最後の頁 459-472
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 KAORI YAMAMOTO	4. 巻 Vol.4 No.2
2. 論文標題 What is Our "Homeland?" --Zainichi Korean High School Students on "Homeland Visit" Tours to the DPRK--	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Culture and Empathy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 金泰植
2. 発表標題 韓流と家父長制
3. 学会等名 カルチュラル・タイフーン2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金泰植
2. 発表標題 「総聯系」在日朝鮮人表象の政治学
3. 学会等名 コリア学国際學術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金泰植
2. 発表標題 「韓流」ファンの「嫌韓」認識
3. 学会等名 韓国政治学会年次學術大大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金泰植
2. 発表標題 韓流ファンと「嫌韓」言説
3. 学会等名 日本社会学会・韓国社会学会共同セミナー（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本かほり
2. 発表標題 在日朝鮮人の民族教育－朝鮮学校をめぐる問題を中心に
3. 学会等名 西日本社会学会シンポジウム「「移民受け入れ」時代の社会学－1990年入管法改正から30年を経て」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本かほり
2. 発表標題 排外主義と在日朝鮮人－高校無償化排除をめぐる
3. 学会等名 東海社会学会大会シンポジウム「<ネオ>リベラリズムと排外主義－ナショナリズムと「多文化共生」の関連から」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 李洪章
2. 発表標題 在日朝鮮人留学生にとっての「母国」と「統一」
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究会「帝国のはざまを生きる」第4回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金泰植
2. 発表標題 無知と蔑視：戦後在日朝鮮人の生活とアイデンティティ（韓国語）
3. 学会等名 圓光大学校HK、東北アジア人文社会研究所第19回学術大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 蘭 信三、松田利彦、李 洪章、原 佑介、坂部 晶子、八尾 祥平	4. 発行年 2022年
2. 出版社 みずき書林	5. 総ページ数 728
3. 書名 帝国のはざまを生きる	

1. 著者名 山本 かほり	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三一書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 在日朝鮮人を生きる	

1. 著者名 松田素二・阿部利洋・井戸聡・大野哲也・野村明宏・松浦雄介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山代出版株式会社印刷部	5. 総ページ数 372
3. 書名 日常実践の社会人間学 都市・抵抗・共同性	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 かほり (YAMAMOTO KAORI) (30295571)	愛知県立大学・教育福祉学部・教授 (23901)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金 泰植 (KIM THAESIK) (20827406)	早稲田大学・地域・地域間研究機構・客員次席研究員 (32689)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	金 汝卿 (KIM YEOKYUNG)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関